

CfUWYJ]fhi U'8 Yg_hcd'7`]Ybh&'
5 Xa]b]gfhU]cb'; i]XY
!>UdUbYgY!

February 2011

ORACLE®

U!æ\^Áãç æ\Ö^ \t] Ö|a} öÖÖÖ(ä ä cæä } Ö~ ä^ÄPæ æ ^•^

Copyright © 2011, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

This software and related documentation are provided under a license agreement containing restrictions on use and disclosure and are protected by intellectual property laws. Except as expressly permitted in your license agreement or allowed by law, you may not use, copy, reproduce, translate, broadcast, modify, license, transmit, distribute, exhibit, perform, publish, or display any part, in any form, or by any means. Reverse engineering, disassembly, or decompilation of this software, unless required by law for interoperability, is prohibited.

The information contained herein is subject to change without notice and is not warranted to be error-free. If you find any errors, please report them to us in writing.

If this software or related documentation is delivered to the U.S. Government or anyone licensing it on behalf of the U.S. Government, the following notice is applicable:

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

This software is developed for general use in a variety of information management applications. It is not developed or intended for use in any inherently dangerous applications, including applications which may create a risk of personal injury. If you use this software in dangerous applications, then you shall be responsible to take all appropriate fail-safe, backup, redundancy, and other measures to ensure the safe use of this software. Oracle Corporation and its affiliates disclaim any liability for any damages caused by use of this software in dangerous applications.

Oracle is a registered trademark of Oracle Corporation and/or its affiliates. Other names may be trademarks of their respective owners.

This software and documentation may provide access to or information on content, products, and services from third parties. Oracle Corporation and its affiliates are not responsible for and expressly disclaim all warranties of any kind with respect to third-party content, products, and services. Oracle Corporation and its affiliates will not be responsible for any loss, costs, or damages incurred due to your access to or use of third-party content, products, or services.

Oracle Virtual Desktop Client 2.0 管理ガイド

目次

- OVDC について
 - Oracle Virtual Desktop Client について
- リリースノート
 - 最新情報
 - Mac OS X のサポート
 - オーディオの録音
 - IPv6 ネットワーク接続
 - スマートカード
 - シリアルデバイス
 - プロファイルとログファイルの場所
 - サポートされるプラットフォーム
 - 製品の要件
 - OVDC の制限事項
 - 既知の問題
- OVDC のインストールとアップグレード
 - Microsoft Windows プラットフォームに OVDC をインストールする方法
 - Mac OS X プラットフォームに OVDC をインストールする方法
 - OVDC をアンインストールする方法
 - OVDC をアップグレードする方法
- OVDC の使用法
 - Sun Ray サーバーへの接続
 - Sun Ray セッションからの切断
 - コマンド行からの OVDC の実行
 - コマンド行の例
- よくある質問
 - Sun Ray サーバーの名前を知る必要がありますか。
 - 仮想プライベートネットワークによって接続することはできますか。 </h2>
 - Sun Ray サーバーに接続できない場合はどうすればよいですか。
 - スマートカードを使用してログインすることはできますか。 </h2>
 - 複数のモニターを設定できますか。 </h2>
 - クライアントコンピュータでオーディオを再生したり録音したりするにはどうすればよいですか。 </h2>
 - どうすれば表示品質を向上できますか。 </h2>
 - Sun Ray セッションの表示サイズを設定するにはどうすればよいですか。
 - 全画面セッションを終了するにはどうすればよいですか。 </h2>
 - 複数のプロファイルを使用できますか。 </h2>
- の設定
 - 「接続」タブ
 - 「ネットワーク」タブ
 - 「Hot Key」タブ
 - 「ログ」タブ
 - 「詳細」タブ
 - 「バージョン情報」タブ
- プロファイルの使用
 - プロファイルについて
 - プロファイルとログファイル
 - 新しいプロファイルの作成
 - プロファイルの編集
 - プロファイルの設定の置き換え
 - コマンド行からの新規プロファイルの作成
- OVDC の管理
 - OVDC へのアクセスの有効化
 - OVDC へのアクセスを有効にする方法
 - OVDC と Sun Ray DTU のクライアント ID の相違点
 - Sun Ray DTU ID の例
 - OVDC ID の例
- OVDC のトラブルシューティング

- VPN 使用時の接続の問題
 - ログレベルの設定
 - ログファイルの場所の変更
 - `--logfile` コマンドオプションの使用法
 - クライアント ID 情報の表示
 - オンスクリーンディスプレイを使用した接続の問題の診断
 - キーボードの国番号の変更
 - Sun キーボードのショートカットの使用
-

OVDC について

Oracle Virtual Desktop Client について

Oracle Virtual Desktop Desktop Client (OVDC) は、一般的なオペレーティングシステムにインストールするアプリケーションです。OVDC を使用して Sun Ray™ サーバーにログインし、Sun Ray デスクトップセッションを開始したり Sun Ray デスクトップセッションに再接続したりします。

OVDC はお使いのコンピュータにインストールして実行することができるため、Sun Ray Desktop Unit (DTU) の代わりとして使用できます。たとえば、OVDC を自宅のコンピュータにインストールし、それを使用してオフィスの Sun Ray サーバーにログインすることができます。そして、オフィスの Sun Ray DTU で作業しているかのように、プログラムやファイルにアクセスできます。

OVDC を実行して Sun Ray サーバーに接続するために使用するコンピュータは、クライアントコンピュータと呼ばれます。

Sun Ray セッションは、次の表示モードのいずれかを使用してクライアントコンピュータに表示されます。

- 「ウィンドウ」モード – 画面上のウィンドウにセッションが表示されます
 - 「全画面」モード – 画面領域全体にセッションが表示されます
-

リリースノート

最新情報

このセクションでは、OVDC のバージョン 2.0 の新機能のほか、最新リリース以降の変更について、詳しく説明します。

Mac OS X のサポート

OVDC は Mac OS X プラットフォームにインストールできます。詳細は、[サポートされるプラットフォーム](#)を参照してください。

オーディオの録音

以前のリリースでは、ユーザーがクライアントコンピュータ上の Sun Ray セッションからオーディオを再生することができました。このリリースでは、クライアントコンピュータからのオーディオ入力の録音がサポ

IPv6 ネットワーク接続

このリリースでは、Internet Protocol version 6 (IPv6) のネットワークアドレスがサポートされています。

スマートカード

このリリースでは、スマートカードを使用した Sun Ray

サーバーへのログインがサポートされています。ホットデスクングとも呼ばれる、スマートカードを使用したモバイルセッションがサポート

シリアルデバイス

このリリースでは、クライアントコンピュータのシリアルポートに接続されているデバイスがサポートされています。Sun Ray セッション中に接続されたシリアルデバイスは、自動的に検出されます。この機能はホットデスクングと呼ばれます。

クライアントコンピュータ上の USB シリアルアダプタも使用できます。

この機能は、Microsoft Windows プラットフォームでサポートされます。

プロファイルとログファイルの場所

以前のリリースでは、プロファイルとログファイルはクライアントコンピュータのデフォルトの場所に格納されました。このリリースでは、

サポートされるプラットフォーム

OVDC は、次のオペレーティングシステムでサポートされます。

- Microsoft Windows XP (32 ビットおよび 64 ビット)
- Microsoft Windows Vista (32 ビットおよび 64 ビット)
- Microsoft Windows 7 (32 ビットおよび 64 ビット)
- Mac OS X 10.6

製品の要件

OVDC は、Sun Ray Server Software (SRSS) バージョン 4.2 以降で動作します。

OVDC のオーディオ録音記録とスマートカード機能を使用するには、SRSS 4.2 のパッチ、バージョン -03 をインストールする必要があります。



注

OVDC を Sun Ray Server Software (SRSS) で使用する前に、OVDC へのアクセスを有効にする必要があります。詳細については、[OVDC へのアクセスの有効化](#)を参照してください。

OVDC の制限事項

現在のリリースでは、次の機能は OVDC でサポートされていません。

- スマートカードとシリアルデバイスを除く、Universal Serial Bus (USB) の切り替え。
- パラレルポートデバイス
- Sun Ray セッションと OVDC を実行するローカルのオペレーティングシステムの間でのコピー&ペースト

シリアルポートの切り替えは、Microsoft Windows プラットフォームでのみサポートされます。

既知の問題

終了キーの組み合わせが一部のクライアントコンピュータで機能しない (CR 6876016)

問題

「Hot Key」タブを使用して選択した終了キーの組み合わせが、クライアントコンピュータで機能しません。

次善策

クライアントコンピュータ上で機能する代わりに終了キーの組み合わせを選択します。

Mac OS X の設定ダイアログで、ラテン文字しかサポートされない (CR 6916545)

問題

Mac OS X プラットフォームで、「OVDC configuration」ダイアログにラテン文字しか表示されません。中国語、日本語、および韓国語ロケールのユーザーに対して、常に、英語の記

次善策

現在のところ、既知の解決策はありません。

OVDC のインストールとアップグレード

Microsoft Windows プラットフォームに OVDC をインストールする方法

注
OVDC をインストールするには、クライアントコンピュータでの管理者権限が必要です。

1. OVDC の Windows 用インストールプログラム、`vdc.msi` をクライアントコンピュータにコピーします。
2. `vdc.msi` をダブルクリックし、手順に従います。
OVDC ソフトウェアがクライアントコンピュータにインストールされ、OVDC のエントリが Windows の「スタート」メニューに追加されます。

Mac OS X プラットフォームに OVDC をインストールする方法

注
OVDC をインストールするには、クライアントコンピュータでの管理者権限が必要です。

1. OVDC の Mac 用ディスクイメージファイル、`Oracle Virtual Desktop Client.dmg` をクライアントコンピュータにコピーします。
2. `Oracle Virtual Desktop Client.dmg` ディスクイメージファイルアイコンをダブルクリックします。
`Oracle Virtual Desktop Client.mpkg` インストーラファイルが、ファインダウィンドウに表示されます。
3. `Oracle Virtual Desktop Client.mpkg` インストーラファイルをダブルクリックし、手順に従います。
OVDC ソフトウェアがクライアントコンピュータにインストールされ、OVDC アプリケーションアイコンが「アプリケーション」フォルダに追加されます。

OVDC をアンインストールする方法

注
OVDC をアンインストールするには、クライアントコンピュータでの管理者権限が必要です。

1. OVDC プログラムをアンインストールします。
 - Microsoft Windows platforms の場合。Windows の「スタート」メニューで、「すべてのプログラム」 → 「Oracle Virtual Desktop Client」 → 「アンインストール」オプションを選択し、画面上の手順に従います。
OVDC のプログラムファイルとメニューエントリが、クライアントコンピュータから削除されます。
 - Mac OS X プラットフォームの場合。「アプリケーション」フォルダを開き、「Oracle Virtual Desktop Client」アイコンをゴミ箱にドラッグします。

OVDC のプログラムファイルが、クライアントコンピュータから削除されます。

OVDC をアップグレードする方法

注
OVDC をアップグレードするには、クライアントコンピュータでの管理者権限が必要です。

- 現在のバージョンの OVDC をアンインストールします。
その方法については、[OVDC をアンインストールする方法](#)を参照してください。
- アップグレードされたバージョンの OVDC をインストールします。
 - Microsoft Windows プラットフォームの場合。[How to Install OVDC on Microsoft Windows Platforms](#)を参照してください。
 - Mac OS X プラットフォームの場合。[How to Install OVDC on Mac OS X Platforms](#)を参照してください。

OVDC の使用法

Sun Ray サーバーへの接続

- OVDC を起動します。
 - *Microsoft Windows プラットフォームの場合。*Windows の「スタート」メニューで、「すべてのプログラム」 → 「Oracle Virtual Desktop Client」 → 「Oracle Virtual Desktop Client」 オプションを選択します。
 - Mac OS X プラットフォームの場合。「アプリケーション」フォルダで、「Oracle Virtual Desktop Client」アプリケーションアイコンをクリックします。
「OVDC configuration」ダイアログが表示されます。



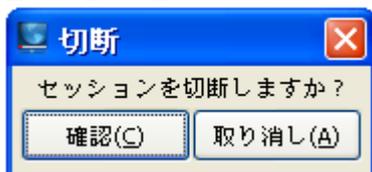
- 接続先の Sun Ray サーバーを指定します。
「Connect to Server」設定で、次のいずれかを行います。

- *「Find Automatically」 オプションを選択します。*OVDC に自動的に Sun Ray サーバーを検出させる場合は、このオプションを選択します。
 - *Sun Ray サーバーの名前を入力します。*Sun Ray サーバーの名前がわかっている場合は、これをテキストフィールドに入力します。「接続」タブの他の設定にはデフォルト値を使用します。
3. Sun Ray サーバーに接続します。
「接続」ボタンをクリックします。
OVDC が Sun Ray サーバーに接続すると、Sun Ray のログイン画面が表示されます。
 4. Sun Ray サーバーにログインします。
次のいずれかを実行します。
 - a. Sun Ray ユーザーアカウントのユーザー名とパスワードを入力します。
 - b. クライアントコンピュータに接続されているスマートカードリーダーにスマートカードを挿入します。

コンピュータ画面上のウィンドウに Sun Ray セッションが表示されます。

Sun Ray セッションからの切断

1. Sun Ray セッションを閉じます。
たとえば、デスクトップセッションの場合は、「Sun Ray Launch」メニューの「ログアウト」をクリックするか、スマートカードを取り出します。
2. OVDC を閉じます。
左 Shift-左 Ctrl-左 Alt キーを押し、「Disconnect」ダイアログを表示します。



「Disconnect」ダイアログの「確認」ボタンをクリックすると、Sun Ray セッションから切断し、OVDC が閉じます。

- 注**
ウィンドウモードで「Disconnect」ダイアログを表示するには、ウィンドウを閉じるアイコンをクリックします。

コマンド行からの OVDC の実行

コマンド行から OVDC を設定および実行するには、次のいずれかの方法で `vdc` コマンドを使用します。

```
vdc
vdc [ options... ] [ servername | --autoconnect ]
```

`servername` は、接続先の Sun Ray サーバーの名前です。--autoconnect オプションは、ネットワーク上の Sun Ray サーバーを自動的に検出します。

`vdc` コマンドがコマンド行の引数なしで使用されると、「OVDC configuration」ダイアログが表示されます。

`servername` が指定されている場合や、--autoconnect オプションが使用されている場合、「OVDC configuration」ダイアログは表示されません。

`vdc` コマンドの使用可能なオプションを次の表に示します。

コマンドオプション	説明
-? --help	コマンドのヘルプを表示します。
-c --create-profile	OVDC を実行したり「OVDC configuration」ダイアログを表示したりせずに、コマンド行から新規プロファイル設定は --profile オプションで指定されたプロファイルファイルに保存され、--profil オプションが指定されていない場合はデフォルトのプロファイルに保存されます。コマンド行からの新機能を参照してください。

-v --version	バージョン情報を表示します。
--autoconnect	DHCP などの検出メカニズムを使用して、ネットワーク上の Sun Ray サーバーを自動的に選択します。「configuration」ダイアログは表示されません。
-f --fullscreen	画面領域全体を使用して Sun Ray セッションを表示します。
--windowed	画面上のウィンドウに Sun Ray セッションを表示します。
--size <i>widthxheight</i>	Sun Ray セッションの寸法 (ピクセル) です。 <i>width</i> は Sun Ray セッションの幅で、64 ~ 5120 ピクセルです。 <i>height</i> は Sun Ray セッションの高さで、64 ~ 5120 ピクセルです。
-s --scaling	表示ウィンドウのサイズを変更すると、表示のスケールが自動的に変更されます。
--noscaling	表示ウィンドウのサイズを変更しても、表示のスケールは自動的に変更されません。
--audio	クライアントコンピュータ上でオーディオ出力を有効にします。
-n --noaudio	クライアントコンピュータ上でオーディオ出力を無効にします。
-i --clientid	OVDC のクライアント ID を表示します。
-b <i>megabits</i> --bandwidth <i>megabits</i>	接続の最大帯域幅 (メガビット/秒) です。
-p --span	複数のモニターのみです。表示をすべての画面に広げます。
--nospan	複数のモニターのみです。1 台のモニターに表示します。
-r <i>num</i> --onscreen <i>num</i>	複数のモニターのみです。指定された画面を使用してセッションを表示します。
-a --autosize	クライアントコンピュータの Sun Ray セッションのサイズを自動的に設定します。
--noautosize	クライアントコンピュータの Sun Ray セッションのサイズを自動的に設定しません。
-m <i>bytes</i> --mtu <i>bytes</i>	最大伝送単位です。接続の最大パケットサイズです。
--profile <i>profilename</i>	指定されたプロファイルファイルで定義された設定を使用して OVDC を実行します。プロファイルファイルがデフォルトの場所がない場合は、ファイルのフルパス名を入力し --profile オプションが使用されていない場合は、Sun Ray セッションで default プロファイルが使用される <i>profilename</i> ファイルが存在しない場合は、接続時に自動的に作成され、「OVDC configuration」ダイ
	<div style="background-color: #e6f2ff; padding: 10px; border: 1px solid #add8e6;"> <p> 注 プロファイルの設定は、他のコマンド行オプションによって置き換えることができます。P を参照してください。</p> </div>
-o --force-compression	伝送する前に、すべてのパケットを自動的に圧縮します。
--noforce-compression	伝送する前に、すべてのパケットを自動的に圧縮しません。
-e --lossless-compression	イメージデータに対して、無損失圧縮のみを使用します。不可逆圧縮を無効にします。
--nolossless-compression	イメージデータに対して、不可逆または無損失圧縮を使用します。

-l num --logginglevel num	記録するログメッセージのレベルです。 0 = ログなし 1 = 重要なメッセージ 2 = 警告 3 = 通知メッセージ ログレベルは累積されます。たとえば、ログレベル 3 を選択すると、すべての警告および重要なメッセ-
-d num --logging-domains num	記録するログメッセージのカテゴリです。 1 = セッション 2 = ネットワーク 4 = 入力 8 = アプリケーションリンクプロトコル (Appliance Link Protocol, ALP) コマンド 16 = マルチメディア 32 = オーディオ 64 = ディスプレイ 128 = スマートカード 256 = シリアル 複数のカテゴリに対して、値を追加します。 たとえば、33 = オーディオ + セッション、511 = すべてのカテゴリのようになります。
-x num --exit-key-sequence num	終了キーの組み合わせです。「Disconnect」ダイアログを表示するために使用されます。 0 = キー選択なし 1 = 左 Shift キー 2 = 右 Shift キー 3 = 左 Ctrl キー 4 = 右 Ctrl キー 5 = 左 Alt キー 6 = メニューキー 7 = 左 Windows キー (Windows プラットフォーム)、左コマンドキー (Mac OS X プラットフォーム) 8 = 右 Windows キー (Windows プラットフォーム)、右コマンドキー (Mac OS X プラットフォーム) 9 = Num Lock キー 10 = Scroll Lock キー キーの組み合わせを指定するには、コマンドオプションを複数回使用します。たとえば、-x 1 -x 3 - キーと同じです。
-N num --network num	ネットワーク接続に使用されるプロトコルです。 0 = 自動 4 = IPv4 6 = IPv6
-R --audiorec	クライアントコンピュータからのオーディオ入力を有効にします。
-C --noaudiorec	クライアントコンピュータからのオーディオ入力を無効にします。
--logfile	ログファイルの名前です。フルパス名を入力しなかった場合、ログファイルはデフォルトの場所に格納さ
--serial	クライアントコンピュータのシリアルポートのサポートを有効にします。
--noserial	クライアントコンピュータのシリアルポートのサポートを無効にします。
--smartcard	クライアントコンピュータのスマートカード使用のサポートを有効にします。
--nosmartcard	クライアントコンピュータのスマートカード使用のサポートを無効にします。
--keyboard-country-code num	クライアントコンピュータのキーボードの国番号です。OVDC は、クライアントコンピュータのオペレーティングシステムから、キーボードの国番号を自動的に検出し ~ 255 の値を指定します。

コマンド行の例

次の例は、コマンド行から OVDC を設定および実行する方法を示しています。

OVDC を起動し、「OVDC configuration」ダイアログを表示するには、次の手順に従います。

```
vdc
```

「OVDC configuration」ダイアログを表示せずに、ネットワーク上で Sun Ray サーバーに自動的に接続するには、次の手順に従います。

```
vdc --autoconnect
```

Sun Ray サーバー `sr-1.example.com` から全画面セッションを表示するには、次の手順に従います。

```
vdc --fullscreen sr-1.example.com
```

左 Alt-左 Windows キーに対する終了キーの組み合わせを変更するには、次の手順に従います。

```
vdc -x 5 -x 7 sr-1.example.com
```

1366 バイトの MTU を使用して接続するには、次の手順に従います。

```
vdc --mtu 1366 sr-1.example.com
```

fullscreenmode プロファイルで定義された設定を使用して OVDC を実行するには、次の手順に従います。

```
vdc --profile fullscreenmode sr-1.example.com
```

よくある質問

Sun Ray サーバーの名前を知る必要がありますか。

ネットワーク上の Sun Ray サーバーを自動的に検出するために「接続」タブの「Find Automatically」オプションを使用している場合は、Sun Ray サーバーの名前を知る必要はありません。ただし、特定の Sun Ray サーバーに接続するためには、「Connect to Server」フィールドに Sun Ray サーバーの名前を入力する必要があります。ネットワークの設定方法に応じて、次の名前の 1 つまたは複数を使用します。

- ネットワーク上のサーバーの完全な名前は、ドメインネームシステム (DNS) と呼ばれます。たとえば、`sr-1.example.com`。
- サーバーのホスト名です。たとえば、`sr-1`。
- サーバーのインターネットプロトコル (Internet Protocol, IP) アドレスです。たとえば、`123.456.789.12`。

Sun Ray サーバーの名前を知る必要がある場合は、管理者に問い合わせてください。

仮想プライベートネットワークによって接続することはできますか。

Desktop Access Client を使用して仮想プライベートネットワーク (Virtual Private Network, VPN) によって Sun Ray サーバーに接続することができます。VPN は、通常、在宅勤務の従業員など、ネットワーク外の人に会社のネットワークへのセキュリティ保護されたアクセスを提供するために使用によって接続できるようにコンピュータを設定する際に支援が必要な場合は、管理者に連絡してください。

VPN 越しに OVDC を使用するには、「Network」タブの「Maximum Transmission Unit (MTU)」の設定をデフォルト設定の 1500 バイトから減らす必要がある場合があります。会社の VPN の必要な設定については、管理者に問い合わせてください。

Sun Ray サーバーに接続できない場合はどうすればよいですか。

Sun Ray Server Software (SRSS) では、オンスクリーンディスプレイ (OSD) を使用して接続状況が表示されます。OSD を使用して接続の問題を診断することができます。

たとえば、次の OSD アイコンは、OVDC を使用したアクセスに対して SRSS が有効になっていないことを示します。



Sun Ray サーバーに接続できず、このアイコンが表示されない場合は、管理者に連絡してください。

ファイアウォールの設定が原因で Sun Ray サーバーに接続できなくなっている可能性があります。コンピュータのファイアウォールの設定で、OVDC を使用してインターネットにアクセスできるようになっていることを確認してください。

スマートカードを使用してログインすることはできますか。

クライアントコンピュータに接続されているスマートカードリーダーにスマートカードを挿入することによって、OVDC から Sun Ray サーバーにログインすることができます。

1 台のクライアントコンピュータで Sun Ray

セッションを開始し、別のクライアントコンピュータからそのセッションを再開することができるモバイルセッションがサポートされています。ホットデスクングと呼ばれます。

スマートカードを使用するために OVDC を有効にするには、「OVDC configuration」ダイアログの「詳細」タブにある「Smart Card」チェックボックスをオンにします。

i 注
管理者は、Sun Ray セッションに対して、スマートカードを使用してホットデスクングを有効にする必要がある場合があります。

複数のモニターを設定できますか。

OVDC は次の方法で複数のモニターで使用できます。

- 表示をすべてのモニターに広げます。すべてのモニターの表示が結合されて、1 つの大きな「仮想表示」を形成します。その結果、Sun Ray セッションは、仮想表示全体を使用して表示されます。このモードを有効にするには、「接続」タブの「全画面」設定の「すべての

i 注
表示が広がるモードを最大限に利用するには、すべてのモニターを同じ表示解像度に設定してください。

- Sun Ray セッションを 1 つのモニターで表示します。モニターの 1 つを使用して Sun Ray セッションを表示し、残りのモニターは他のアプリケーションを実行するために空いた状態にしておきます。このモードを有効にするには、Sun Ray セッションに使用する画面を選択します。

クライアントコンピュータでオーディオを再生したり録音したりするにはどうすれば

コンピュータで Sun Ray

セッションからオーディオを再生するには、「接続」タブの「再生」チェックボックスをオンにします。その結果、たとえばポッドキャスト

Sun Ray

セッションでコンピュータからのオーディオ入力を録音するには、「接続」タブの「録音」チェックボックスをオンにします。たとえば、Ray サーバー上でソフトウェアを使用してサウンドを録音することができます。



注

管理者は Sun Ray セッションに対してこの機能を有効にする必要があります。

どうすれば表示品質を向上できますか。

デフォルトでは、Sun Ray

サーバーは、必要に応じて画像データを圧縮することによって、ネットワーク状態の変化を自動的に補正します。これにより、表示品質が損なわれず、ネットワーク状態にかかわらず、最高の表示品質が必要な場合は、「Network」タブで「無損失圧縮」設定を選択します。

Sun Ray セッションの表示サイズを設定するにはどうすればよいですか。

Sun Ray セッションの表示サイズは、「接続」タブの設定を使用して設定します。

「自動サイズ変更」オプションを選択すると、Sun Ray

セッションの表示サイズがクライアントコンピュータの画面に合わせて自動的に調整されます。「全画面」を選択すると、表示は画面全体を占める Sun Ray セッションは画面上のウィンドウに表示され、そのサイズは変更できます。

また、Sun Ray

セッションの表示サイズは、定義済みの表示サイズのいずれかを選択することや、必要な表示サイズを入力することによっても、定義できず変更された変更は、新しい Sun Ray セッションに対してのみ適用されます。



注

Sun Ray

サーバーについてのポリシーにより、セッションの実際の表示サイズが要求した表示サイズと異なる場合があります。

全画面セッションを終了するにはどうすればよいですか。

全画面セッションには、ウィンドウを最小化したり閉じたりするためのアイコンが含まれていません。

これによって「Disconnect」ダイアログが表示され、Sun Ray セッションから切断し、OVDC を閉じることができます。



注

このキーボードショートカットは、「Hot Key」タブの設定を使用して変更できます。

複数のプロファイルを使用できますか。

はい。たとえば、接続先の Sun Ray サーバーに応じてさまざまな設定を使用したいという場合があります。

Sun Ray セッションごとの必要な設定を、[新しいプロファイルの作成](#)

で説明されているプロファイルに保存します。その結果、コマンド行から Desktop Access Client を起動するときに、必要なプロファイルを指定できるようになります。たとえば、次のようになります。

```
vdc --profile srl-profile
```



注

複数のプロファイルを同時に使用できます。たとえば、同じクライアントコンピュータで複数の同時 Sun Ray セッションを実行するためなどです。

OVDC でのプロフィールの作成および使用については、[プロフィールセクション](#)を参照してください。

の設定

「接続」タブ

接続先の Sun Ray

サーバーを指定したり、接続の表示ウィンドウやオーディオサービスを設定したりするには、「接続」タブを使用します。

次の表は、このタブで使用可能な設定を示しています。

設定内容	説明
接続先サーバー	<p>接続先の Sun Ray サーバーです。次のオプションが使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自動検索。Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) などの検出メカニズムを使用して、ネットワーク User Specified Server Name。接続先の Sun Ray サーバーの完全名と IP アドレスを入力します。または、サーバーのリストから選択します。
ディスプレイ	<p>Sun Ray セッションの表示モードです。次のオプションが使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ウィンドウ。画面上のウィンドウに Sun Ray セッションが表示されます。 全画面。Sun Ray セッションが画面領域全体に表示されます。 全画面モードを終了するには、左 Shift-左 Ctrl-左 Alt を入力します。 「全画面」を選択した場合は、複数モニターの使用時に次のオプションが使用可能です。 すべてのスクリーンを広げる。複数の画面にわたって表示されます。 画面に表示する。Sun Ray セッションを表示する画面を選択します。表示されるオプションの数は、使用
優先セッションサイズ	<p>Sun Ray セッションの優先表示サイズです。 次のオプションが使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自動サイズ変更。Sun Ray セッションが画面の任意のサイズで表示されます。「全画面」を選択すると、セッションは画面全体に合わせてサイズ調整されます。 User Specified Display Size。表示サイズの定義済みリストから選択するか、Sun Ray セッションの幅と高 480 のようになります。 「全画面」を選択し、セッション寸法が画面の寸法よりも大きい場合、マウスポインタを画面の縁近く（と呼ばれます。セッション寸法が画面の幅よりも小さい場合は、表示可能な画面領域の周囲に黒い帯が; 複数のモニターを使用していて、セッション幅またはセッション高さが第一ディスプレイの幅または高 <div style="background-color: #e6f2ff; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p> 注 Sun Ray サーバーについてのポリシーにより、セッションの実際の表示サイズが要求した表</p> </div>
スケーリングを許可する	<p>ウィンドウに合わせて表示のスケールが調整されます。ウィンドウのサイズを変更すると、表示のスケールが自 表示のスケーリングを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。その結果、表示サイズは固定さ ウィンドウモードでは、ウィンドウのサイズを変更したときに、表示の縦横比が保持されます。全画面モードで</p>
再生	<p>クライアントコンピュータ上の Sun Ray セッションからオーディオを再生できるようにします。</p>
記録	<p>Sun Ray セッションでクライアントコンピュータからオーディオを記録できるようにします。</p>

「ネットワーク」タブ

ネットワーク接続とデータ圧縮の設定を行うには、「ネットワーク」タブを使用します。

次の表は、このタブで使用可能な設定を示しています。

設定内容	説明
帯域幅の制限	接続の最大帯域幅 (メガビット/秒) です。 デフォルトの設定は 75 メガビット/秒で、最大値です。 帯域幅の狭い接続を使用している場合や、OVDC で使用されるサーバー帯域幅を制限したい場合は、この設定を
最大伝送単位 (MTU)	これは、ネットワーク接続の最大パケットサイズ (バイト単位) です。 デフォルトの設定は 1500 バイトで、最大値です。 仮想プライベートネットワーク (Virtual Private Network、VPN) の使用時に問題が発生した場合は、この値を減ら のヘッダーのスペースを空けることをお勧めします。ネットワークの適切な設定については、管理者に問い合わ
圧縮の強制	使用可能な帯域幅にかかわらず、伝送する前にすべてのパケットを圧縮します。
無損失圧縮	イメージデータに対して、不可逆圧縮の使用を無効にします。高画質の表示が必要な場合に、この設定を選択し
ネットワークプロトコル	Sun Ray ネットワーク上のコンピュータで使用するネットワークアドレスの種類です。デフォルトの設定は「Auto」です

「Hot Key」タブ

OVDC を終了するために使用するキーボードショートカットを設定するには、「Hot Key」タブを使用します。これは、終了キーの組み合わせと呼ばれます。

次の表は、このタブで使用可能な設定を示しています。

設定内容	説明
終了キーの組み合わせ	OVDC を終了するために使用するキーボードショートカットを定義します。デフォルトの設定は、左 Shift-左 Ctrl-左 Alt です。



注

使用可能な終了キーの組み合わせの一部が、お使いのコンピュータで機能しない可能性があります。設定した終了キーの組

「ログ」タブ

記録するログレベルやログメッセージの種類を設定するには、「ログ」タブを使用します。

次の表は、このタブで使用可能な設定を示しています。

設定内容	説明
レベル	ログレベルです。情報、警告、および重要なメッセージを記録できます。
カテゴリ	記録するログメッセージのカテゴリを選択します。

デフォルトでは、ログメッセージは、使用されているプロファイルにちなんで名前が付けられた、クライアント上の .log テキストファイルに書き込まれます。たとえば、default プロファイルのログファイルは default.log となります。ログファイルのデフォルトの場所は、次のように、インストールプラットフォームによって異なります。

- Microsoft Windows XP プラットフォーム – C:\Documents and Settings\username\Application Data\OVDC\profilename.log
- Microsoft Windows Vista および Microsoft Windows 7 プラットフォーム – C:\Users\username\AppData\Roaming\OVDC\profilename.log
- Mac OS X プラットフォーム – \$HOME/.OVDC/profilename.log

--logfile コマンドオプションを使用して、ログファイルの名前と場所を変更することができます。

「詳細」タブ

OVDC の詳細設定を行うには、「詳細」タブを使用します。

次の表は、このタブで使用可能な設定を示しています。

設定内容	説明
シリアル	クライアントコンピュータ上のシリアルポートに接続されるデバイスに Sun Ray セッションからアクセスできるようにします。クライアントコンピュータ上の USB シリアルアダプタも使用できます。Sun Ray セッション中に追加されたデバイスは、自動的に検出されます。シリアルポートのデバイスノードは、Sun R \$DTDEVROOT ディレクトリに一覧表示されます。
スマートカード	スマートカードを使用して Sun Ray セッションにログインできるようにします。ホットデスクングとしても知られるモバイルセッションがサポートされ
キーボードの国番号	クライアントコンピュータのキーボードの国番号です。OVDC は、クライアントコンピュータのオペレーティングシステムから、キーボードの国番号を自動的に検出します。これ ~ 255 の値を指定します。

「バージョン情報」タブ

「バージョン情報」タブには、OVDC のバージョン情報と、クライアントコンピュータのシステムリソースが表示されます。

プロファイルの使用

プロファイルについて

プロファイルは、OVDC の設定が含まれる、クライアントコンピュータ上のテキストファイルです。

OVDC の初回実行時には、default

というデフォルトのプロファイルが作成されます。このプロファイルは、設定ダイアログのタブを使用して OVDC を設定および実行するときに自動的に使用されます。

コマンド行から OVDC を実行するときは、そのセッションで使用する別のプロファイルを指定できます。次に例を示します。

```
vdc --profile myprofile sr-1.example.com
```

プロファイルのフルパス名は、次のように指定します。

```
vdc --profile C:\profiles\myprofile sr-1.example.com
```

プロファイルファイルのパスにスペースが含まれている場合は、そのパスを二重引用符 (") で囲みます。

プロファイルのフルパス名を指定しなかった場合は、次のデフォルトの場所のいずれかが想定されます。

- Microsoft Windows XP プラットフォーム – C:\Documents and Settings\username\Application Data\OVDC
- Microsoft Windows Vista および Microsoft Windows 7 プラットフォーム – C:\Users\username\AppData\Roaming\OVDC
- Mac OS X プラットフォーム – \$HOME/.OVDC

コマンド行から OVDC を実行するときにプロファイル名を指定しなかった場合は、default プロファイルが使用されます。



注

複数のプロファイルを同時に使用できます。たとえば、同じクライアントコンピュータで複数の同時 Sun Ray セッションを実行するためなどです。

プロファイルとログファイル

デフォルトでは、各プロファイルにはプロファイルと同じ名前の対応するログファイルがあります。ログファイルは、プロファイルと同じ --logfile コマンドオプションを使用して、ログファイルの名前と場所を変更することができます。詳細については、[ログファイルの場所の変更](#)を参照してください。

新しいプロファイルの作成

1. コマンド行から OVDC を起動し、新しいプロファイルの名前を指定します。
たとえば、myprofile という新しいプロファイルをデフォルトの場所に作成するには、次のコマンドを実行します。

```
vdc --profile myprofile
```



ヒント

別の場所にプロファイルを作成するには、--profile オプションでフルパス名を使用します。

「OVDC configuration」ダイアログが表示され、デフォルトの設定が示されます。

2. 新しいプロファイルを設定します。
「OVDC configuration」ダイアログのタブを使用して、設定を変更します。
3. 「接続」ボタンをクリックします。
OVDC の設定は、自動的に新しいプロファイルファイルに保存されます。
この例では、新しいプロファイルファイルは myprofile となります。対応するログファイル、myprofile.log も同じディレクトリに作成されます。
次回 OVDC を起動したときに新しいプロファイルを使用するには、次のコマンドを使用します。

```
vdc --profile myprofile --autoconnect
```

プロファイルの編集

OVDC

の設定を変更すると、プロファイルファイルは自動的に更新されます。プロファイルファイルを直接編集するのではなく、プロファイルを

1. コマンド行から OVDC を起動し、プロファイル名を指定します。
たとえば、デフォルトの場所にある fullscreenmode というプロファイルを編集するには、次のコマンドを実行します。

```
vdc --profile fullscreenmode
```

「OVDC configuration」ダイアログが表示され、fullscreenmode プロファイルで定義された設定が示されます。

2. プロファイルの設定を変更します。
「OVDC configuration」ダイアログのタブを使用して、設定を変更します。
3. 「接続」ボタンをクリックします。
OVDC の設定は、自動的にプロファイルファイルに保存されます。

プロファイルの設定の置き換え

コマンド行から OVDC を起動するときは、プロファイルの 1

つまたは複数の設定を置き換えることができます。置き換えられた設定は、現在のセッションでのみ有効で、プロファイルで永続的に変更さ

プロファイルの設定を置き換えるには、置き換え対象の設定のコマンドオプションを指定します。

たとえば、デフォルトの場所にある myprofile というプロファイルのオーディオ設定を置き換えるには、次のコマンドを実行します。

```
vdc --profile myprofile --noaudio sr-1.example.com
```

たとえば、default プロファイルのログレベルの設定と画面の広がり設定を置き換えるには、次のコマンドを実行します。

```
vdc --logging-level 0 --nospan --autoconnect
```

コマンド行からの新規プロファイルの作成

--create-profile

コマンドオプションを使用して、コマンド行から新規プロファイルを作成することができます。このオプションを使用すると、OVDC は実行されず、「OVDC configuration」ダイアログは表示されません。

--create-profile

を使用しているときに行った設定は、プロファイルに保存されます。このオプションを使用しない場合は、デフォルトの設定が使用されます。Sun Ray サーバーを指定すると、そのサーバー名がプロファイルに保存されます。

そのプロファイルファイル名がすでに存在する場合に、--create-profile オプションを使用すると、それが上書きされます。

たとえば、Sun Ray サーバー sr-1.example.com に接続する myprofile というデフォルトの場所に新規プロファイルを作成するには、次のコマンドを実行します。

```
vdc --profile myprofile --create-profile sr-1.example.com
```



ヒント

別の場所にプロファイルを作成するには、--profile オプションでフルパス名を使用します。

OVDC の管理

OVDC へのアクセスの有効化

OVDC を使用するアクセスを有効にするには、Sun Ray Server Software (SRSS) の utpolicy を設定する必要があります。

必要な設定については、[OVDC へのアクセスを有効にする方法](#)を参照してください。

ファイアウォールを次のように設定する必要がある場合もあります。

- クライアントコンピュータ。クライアントコンピュータのファイアウォール設定で OVDC がインターネットにアクセスできるようにします。
- *Sun Ray サーバー。*OVDC で使用されるポートについては、[Ports and Protocols](#)を参照してください。

OVDC へのアクセスを有効にする方法

OVDC

を使用して、スマートカードセッションと非スマートカードセッションの両方にアクセスすることができます。セッションモビリティ、ま



注

次の手順では、Sun Ray サービスのウォームリスタートを使用します。OVDC へのアクセスを無効にする場合は、コールドリスタートを使用します。

コマンド行の使用

1. 現在のポリシーを表示します。
utpolicy コマンドを次のように使用します。

```
# utpolicy
Current Policy:
-a -g -z both -M
```



注

(Solaris のみ) -M オプションにより、非スマートカードモバイル (NSCM) セッションが有効になります。

2. OVDC へのアクセスを有効にするために、現在のポリシーを編集します。

次のいずれかを実行します。

- a. スマートカードセッションと非スマートカードセッションの両方を有効にするには、`-u both` オプションをポリシーオプションに追加します。

```
# utpolicy -a -g -z both -M -u both
```

- b. 非スマートカードセッションのみを有効にするには、`-u pseudo` オプションをポリシーオプションに追加します。

```
# utpolicy -a -g -z both -M -u pseudo
```

- c. スマートカードセッションのみを有効にするには、`-u card` オプションをポリシーオプションに追加します。

```
# utpolicy -a -g -z both -M -u card
```

3. Sun Ray サービスを再起動します。

```
# utrestart
```

OVDC へのアクセスを有効または無効にしたあとは、サーバーグループの Sun Ray サービスの再起動が必要です。

管理 GUI の使用

- 「詳細」タブをクリックします。
- 「詳細」タブの「System Policy」タブをクリックします。
- 「Card Users and Non-Card Users」セクションの「Oracle Virtual Desktop Client」オプションを選択します。これにより、スマートカードセッションと非スマートカードセッションの両方が有効になります。
- 「Warm Restart」ボタンを使用して、サーバーグループのすべてのサーバーを再起動します。

OVDC と Sun Ray DTU のクライアント ID の相違点

Sun Ray Server Software (SRSS) コマンドを使用する既存のスクリプトがある場合や、スクリプトを作成する計画がある場合は、OVDC と Sun Ray DTU のクライアント ID の相違点を認識する必要があります。

すべての Sun Ray クライアントは、SRSS 管理ツール内で、クライアント ID (CID と呼ばれる)、端末 CID、またはクライアント識別子ごとに表されます。クライアント ID にはフル ID とショート ID の両方のバージョンがあります。

- フルクライアント ID: ネームスペース.id-part
- ショートクライアント ID: id-part

ネームスペース値は、id-part 値の形式を決定するタグです。1 つが DTU 用、1 つが OVDC 用になっている現在のネームスペースでは、さまざまな id-part 形式が使用されるため、通常はショートクライアント ID が使用されます。フルクライアント ID は、これらのさまざまな種類のクライアントをより簡単に識別するために使用されます。

クライアント ID の詳細は次のとおりです。

クライアント	ネームスペース	Id-Part の意味	Id-Part の形式
Sun Ray DTU	IEEE802	DTU の MAC アドレス	12 個の 16 進数字
OVDC	MD5	クライアント鍵の MD5 ハッシュ	32 個の 16 進数字

 クライアント鍵は OVDC プロファイルの一部であるため、すべての OVDC プロファイルにそれぞれ自体のクライアント ID があります。

Sun Ray DTU ID の例

ショート ID	フル ID
0003badc1b9d	IEEE802.0003badc1b9d
00144f85f52f	IEEE802.00144f85f52f
080020b5ca55	IEEE802.080020b5ca55

OVDC ID の例

ショート ID	フル ID
1bd97b44ea9458fac256a7a778a282fe	MD5.1bd97b44ea9458fac256a7a778a282fe
d8b3a4eb29497e0c6fbb0f2a810267f5	MD5.d8b3a4eb29497e0c6fbb0f2a810267f5

OVDC のトラブルシューティング

VPN 使用時の接続の問題

仮想プライベートネットワーク (Virtual Private Network、VPN) の使用時に問題が発生した場合は、最大伝送単位 (Maximum Transmission Unit、MTU) の設定を減らして、Internet Protocol Security (IPSec) のヘッダーのスペースを空ける必要がある可能性があります。MTU は、接続の最大パケットサイズです。デフォルトでは、MTU は 1500 バイトに設定されています。

MTU を設定するには、「Network」タブで設定を変更するか、次のコマンドを実行します。

```
vdc --mtu <bytes> <server-name>
```

bytes は最大パケットサイズ (バイト) で、*server-name* は Sun Ray サーバーの名前です。

ログレベルの設定

OVDC の問題を診断しやすくするために、ログレベルを上げることができます。使用可能なログレベルを次の表に示します。

レベル	説明
0	ログなし
1	重要なメッセージ
2	警告
3	通知メッセージ

デフォルトでは、ログレベルは 0 で、これによってログレベルがオフに設定されます。ログレベルは累積されます。たとえば、最大ログレベル 3 には、通知メッセージ、警告、および重要なメッセージが含まれます。

ログレベルを設定するには、「ログ」タブで設定を変更するか、次のコマンドを実行します。

```
vdc --logging-level <num> <server-name>
```

num はログレベルで、*server-name* は Sun Ray サーバーの名前です。

たとえば、*sr-1.example.com* Sun Ray サーバーに接続する際の警告と重要なメッセージを記録するには、次のコマンドを実行します。

```
vdc --logging-level 2 sr-1.example.com
```

ログファイルの場所の変更

デフォルトでは、ログメッセージは、クライアント上の *.log* テキストファイルに書き込まれます。*.log* ファイルは、使用されているプロファイルにちなんで名前が付けられます。たとえば、デフォルトのプロファイルのログファイルは *default.log* となります。

ログファイルのデフォルトの場所は、次のように、インストールプラットフォームによって異なります。

- Microsoft Windows XP プラットフォーム – *C:\Documents and Settings\username\Application Data\OVDC\profilename.log*
- Microsoft Windows Vista および Microsoft Windows 7 プラットフォーム – *C:\Users\username\AppData\Roaming\OVDC\profilename.log*
- Mac OS X プラットフォーム – *\$HOME/.OVDC/profilename.log*

`--profile`

コマンドオプションを使用してプロファイルのパスを指定すると、ログファイルは自動的にそのプロファイルと同じディレクトリに作成され、*C:\temp\fullscreen.log* ファイルに書き込まれます。

```
vdc --profile C:\temp\fullscreen
```

--logfile コマンドオプションの使用法

`--logfile`

コマンドオプションを使用して、ログファイルの名前と場所を変更することができます。ログファイルのパスにスペースが含まれている場合 (") で囲みます。

次の例では、デフォルトのプロファイルが使用され、ログメッセージはデフォルトの場所の *mylog.txt* ファイルに書き込まれます。

```
vdc --logfile mylog.txt
```

次の例では、デフォルトのプロファイルが使用され、ログメッセージは *C:\temp\logfile.txt* ファイルに書き込まれます。

```
vdc --logfile C:\temp\logfile.txt
```

次の例では、*C:\profiles\fullscreen* プロファイルが使用され、ログメッセージは *C:\temp\logfile.txt* ファイルに書き込まれます。

```
vdc --profile C:\profiles\fullscreen --logfile C:\temp\logfile.txt
```

次の例では、*C:\profiles\fullscreen* プロファイルが使用され、ログメッセージはデフォルトの場所の *mylog.txt* ファイルに書き込まれます。

```
vdc --profile C:\profiles\fullscreen --logfile mylog.txt
```

クライアント ID 情報の表示

OVDC のクライアント ID を表示するには、次のいずれかの方法を使用します。

- Sun Ray セッション中にキーボードショートカットを入力します。Windows プラットフォームでは Ctrl-Pause-K を、Mac OS X プラットフォームでは Ctrl-F15-K を使用します。
クライアント ID 情報に加えてソフトウェアバージョン情報を表示するには、Windows プラットフォームでは Ctrl-Pause-V を、Mac OS X プラットフォームでは Ctrl-F15-V を使用します。
- vdc コマンドの `-i` または `--clientid` コマンドオプションを、次のように使用します。

```
vdc -i
vdc --clientid
```

 OVDC のクライアント ID の形式は、Sun Ray DTU のクライアント ID とは異なります。詳細については、[クライアント ID の相違点を参照してください](#)。

オンスクリーンディスプレイを使用した接続の問題の診断

Sun Ray Server Software (SRSS) では、オンスクリーンディスプレイ (OSD) を使用して接続状況が表示されます。OSD を使用して OVDC の接続の問題を診断することができます。

SRSS で使用可能なアイコンとメッセージについては、[Sun Ray Icons](#)を参照してください。

キーボードの国番号の変更

OVDC は、クライアントコンピュータのオペレーティングシステムから、キーボードの国番号を自動的に検出します。場合によっては、キーボードの国番号を変更を変更したいことがあります。たとえば、正しいキーストロークが Sun Ray サーバーに送信されていない場合などです。

キーボードの国番号を変更するには、次の手順に従います。

1. 「OVDC configuration」ダイアログの「詳細」タブに移動します。
2. 「Keyboard Country Code」フィールドに 0 ~ 255 の数字を入力します。

有効な国番号は、Sun Ray サーバーの `/usr/openwin/share/etc/keytables` ディレクトリにある `keytable.map` ファイルに一覧表示されます。

国番号の例をいくつかこのページに示します。

Sun キーボードのショートカットの使用

次の表に、Sun のキーボードと互換性を持たせるために実装されたキーボードショートカットを示します。オーディオオプションは、全画面モードでのみ有効です。

キーボードショートカット	Sun のキーボード	説明
Ctrl-Pause-下向き矢印 (Windows) Ctrl-F15-下向き三角形 (Mac)	Mute	オーディオ出力を消音する
Ctrl-Pause-右向き矢印 (Windows) Ctrl-F15-右向き三角形 (Mac)	Louder	音量を上げる
Ctrl-Pause-左向き矢印 (Windows) Ctrl-F15-左向き三角形 (Mac)	Softer	音量を下げる
Ctrl-Pause-N (Windows) Ctrl-F15-N (Mac)	Mute-Louder-Softer	ネットワーク接続の詳細を表示する

Ctrl-Pause-V (Windows) Ctrl-F15-V (Mac)	Stop-V	OVDC のソフトウェアバージョン番号とクライアント ID を表示する
Ctrl-Pause-K (Windows) Ctrl-F15-K (Mac)	Stop-K	OVDC のクライアント ID を表示する



注

この表のキーボードショートカットでは、Break キーを実装するために、Ctrl-Pause または Ctrl-F15 のキーストロークの組み合わせが使用されます。お使いのコンピュータのキーボードでは、Break キーを実装するために必要なキーストロークが異なる場合があります。詳細は、コンピュータのドキュメントを参照してください。

Copyright © 2010, 2011, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護さ

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りが見つかった場合は、

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントを

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

プログラム、ソフトウェア、データベース、および米国政府機関顧客に提供された関連ドキュメントと技術データは、適用可能な連邦調達規

52.227-19、商用コンピュータのソフトウェアライセンス (2007 年 12 月)

に規定されている追加権限によって適用可能な範囲に従うものとします。Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウ

(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)

への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に保

(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。Oracle Corporation

およびその関連会社は、このソフトウェアまたはハードウェアの危険な使用によって引き起こされたいかなる損害に対する責任も否認しま

Oracle および Java は、Oracle およびその関連会社の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel、Intel Xeon は、Intel

Corporation の商標または登録商標です。SPARC のすべての商標は許可を得て使用され、SPARC International, Inc

の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. から許可を得た登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関

Corporation

およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、およびサービスに関して、種類を問わず、すべての保証に対して責任を負わず、明示的

Corporation

およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、またはサービスへのアクセスまたはそれらの使用によって生じたいかなる損失、費用、

Copyright © 2010, 2011, Oracle et/ou ses affiliés. Tous droits réservés.

Ce logiciel et la documentation qui l'accompagne sont protégés par les lois sur la propriété intellectuelle. Ils sont concédés sous licence et soumis à des restrictions d'utilisation et de divulgation. Sauf disposition de votre contrat de licence ou de la loi, vous ne pouvez pas copier, reproduire, traduire, diffuser, modifier, breveter, transmettre, distribuer, exposer, exécuter, publier ou afficher le logiciel, même partiellement, sous quelque forme et par quelque procédé que ce soit. Par ailleurs, il est interdit de procéder à toute ingénierie inverse du logiciel, de le désassembler ou de le décompiler, excepté à des fins d'interopérabilité avec des logiciels tiers ou tel que prescrit par la loi.

Les informations fournies dans ce document sont susceptibles de modification sans préavis. Par ailleurs, Oracle Corporation ne garantit pas qu'elles soient exemptes d'erreurs et vous invite, le cas échéant, à lui en faire part par écrit.

Si ce logiciel, ou la documentation qui l'accompagne, est concédé sous licence au Gouvernement des Etats-Unis, ou à toute entité qui délivre la licence de ce logiciel ou l'utilise pour le compte du Gouvernement des Etats-Unis, la notice suivante s'applique:

U.S. GOVERNMENT RIGHTS.

ソフトウェア、データベース、および米国政府機関顧客に提供された関連ドキュメントと技術データは、適用可能な連邦調達規則と機関固有

52.227-19、商用コンピュータのソフトウェアライセンス (2007 年 12 月)

に規定されている追加権限によって適用可能な範囲に従うものとします。Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

Ce logiciel ou matériel a été développé pour un usage général dans le cadre d'applications de gestion des informations. Ce logiciel ou matériel

n'est pas conçu ni n'est destiné à être utilisé dans des applications à risque, notamment dans des applications pouvant causer des dommages

corporels. Si vous utilisez ce logiciel ou matériel dans le cadre d'applications dangereuses, il est de votre responsabilité de prendre toutes les

mesures de secours, de sauvegarde, de redondance et autres mesures nécessaires à son utilisation dans des conditions optimales de sécurité.

Oracle Corporation et ses affiliés déclinent toute responsabilité quant aux dommages causés par l'utilisation de ce logiciel ou matériel pour ce

type d'applications.

Oracle et Java sont des marques déposées d'Oracle Corporation et/ou de ses affiliés. Tout autre nom mentionné peut correspondre à des

marques appartenant à d'autres propriétaires qu'Oracle.

AMD, Opteron, le logo AMD et le logo AMD Opteron sont des marques ou des marques déposées d'Advanced Micro Devices. Intel et Intel Xeon sont des marques ou des marques déposées d'Intel Corporation. Toutes les marques SPARC sont utilisées sous licence et sont des marques ou des marques déposées de SPARC International, Inc. UNIX est une marque déposée concédée sous licence par X/Open Company, Ltd.

Ce logiciel ou matériel et la documentation qui l'accompagne peuvent fournir des informations ou des liens donnant accès à des contenus, des produits et des services émanant de tiers. Oracle Corporation et ses affiliés déclinent toute responsabilité ou garantie expresse quant aux contenus, produits ou services émanant de tiers. En aucun cas, Oracle Corporation et ses affiliés ne sauraient être tenus pour responsables des pertes subies, des coûts occasionnés ou des dommages causés par l'accès à des contenus, produits ou services tiers, ou à leur utilisation.